

巻 頭 言

石 川 裕

東京大学情報基盤センター長

平成 22 年 4 月からセンター長に着任した石川裕です。私は、情報理工学系研究科コンピュータ科学専攻（理学部情報科学科）に属しており、平成 18 年よりスーパーコンピューティング研究部門に兼務していました。本冊子の編集委員としても名を連ねておりましたが、執筆したのは T2K オープンスパコン導入に関することのみだったかと思います。この場をお借りまして、最近感じていることを述べさせていただきます、着任の挨拶とさせていただきます。

本原稿を書いている中、日本の 2010 年 FIFA ワールドカップは終わりました。多くの国民がテレビにくぎづけになっていたかと思います。オランダ戦後の岡田監督へのインタビューで、「選手にスタッフも加え、サッカーがチームプレーであることを証明したかった」という言葉が印象に残りました。多くの場合、チームプレーというと、プレーしている選手たちだけを考えていると思います。そうではなく、何事も裏方になりがちなスタッフに感謝の念を持つと共に、一緒に一丸となって取り組むことが重要であることを考えさせられました。今年度から、当センターはネットワーク型学際大規模情報基盤共同利用・共同研究拠点の中核機関として、他の 7 大学の情報基盤系センターと連携し、超大規模な数値計算、データ解析、ネットワーク技術に関する学際共同研究を推進しています。当センターでは、今年度、14 件の学際共同研究を進めています。共同研究者とのチームプレーだけでなく支援部門の技術職員ならびに事務職員とのチームプレーで大規模並列計算、大規模データ解析による科学技術の発展に寄与できればと考えています。

経済が低迷する中、企業は基礎研究に対する投資を控え、また、日本政府の基礎研究に対する支援も十分ではありません。このため、特に、若手研究者がのびのびと活躍する機会が限定されていると感じています。本センターとしては、大規模計算シミュレーション、大規模データ解析、ネットワーク技術による研究を行っている若手研究者が自由な発想で研究できるような場を提供すべく、利用制度の見直しや支援体制を整えていきたいと考えております。